

<p>M t .Kogashi</p> <p>会報誌第 25 号</p> <p>発行人 池田正夫</p> <p>発行日 令和 5 年 8 月 31 日</p>	<p>事務局 〒320-0811</p> <p>宇都宮市大通り 2 丁目 4 番 18 号 NPO 法人 古賀志山を守ろう会</p> <p><a href="https://npo-mt-kogashi.jimdo.com/">https://npo-mt-kogashi.jimdo.com/</a> Email npo.mt.kogashi@gmail.com</p>
---	--

## 1 富士見沢水場の丸太橋完成 !!

多くの登山者が往還する北コース。赤川の支流富士見沢の水場付近に架かる丸太橋は経年劣化が進み朽ち落ちてしまった。(下図) この橋を撤去し、新たに架け替える必要に迫られた。国有林を管理する日光森林管理署と宇都宮市観光交流課の全面的な協力を得て、当会がこの丸太橋の架け換えを行った。



旧丸太橋を撤去し、当会員平野昭夫氏の設計図に基づき作業を進めた。  
丸太の調達、運搬、組み立て、防腐剤塗布等の一連の行程は一日で終わる作業ではない。  
会員各位の汗と労力によって順調に作業を進めた。

縦木に用いる檜の丸太材は日光森林管理署から貰い受け、パイプ管等の器材は観光交流課からの提供による。(右写真) 作業にも日光森林管理署及び観光交流課の職員の協力があったことを付記しておく。



## 2 富士見沢の清流甦る!!……流木撤去による

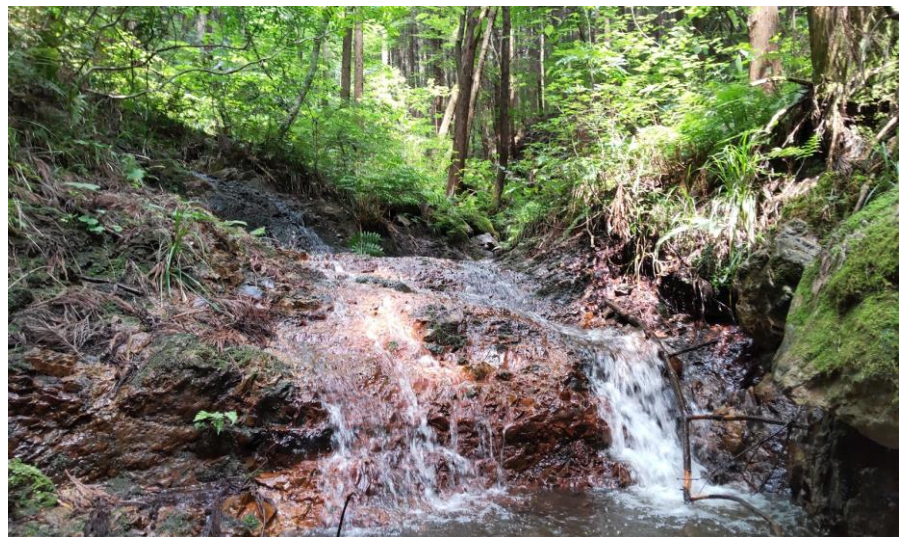


富士見沢の現地は流木と倒木の墓場の状況を呈していた。(左写真)

この流木群を撤去しない限り集中豪雨の際、水場付近に架かる丸太橋は流失を免れない。流木を切断した後、そのままでは意味がない。右岸または左岸の高台に引き揚げる作業が一苦勞である。

当会が富士見沢の流木群の撤去に取り組んだのは下流に付設する丸太橋を守るための善後策であった。会員各位の熱意は一丸となり、知恵を出し合い労力を厭わず撤去作業を進めた。役割分担を決めて全員総力の賜物である。

(右赤瀧)



これまで顧みられなかった赤川の支流富士見沢には二つの小さな滝が姿を現した。

清流は甦り、静かな森林の水音が響くようになった。

(左 二段の瀧)

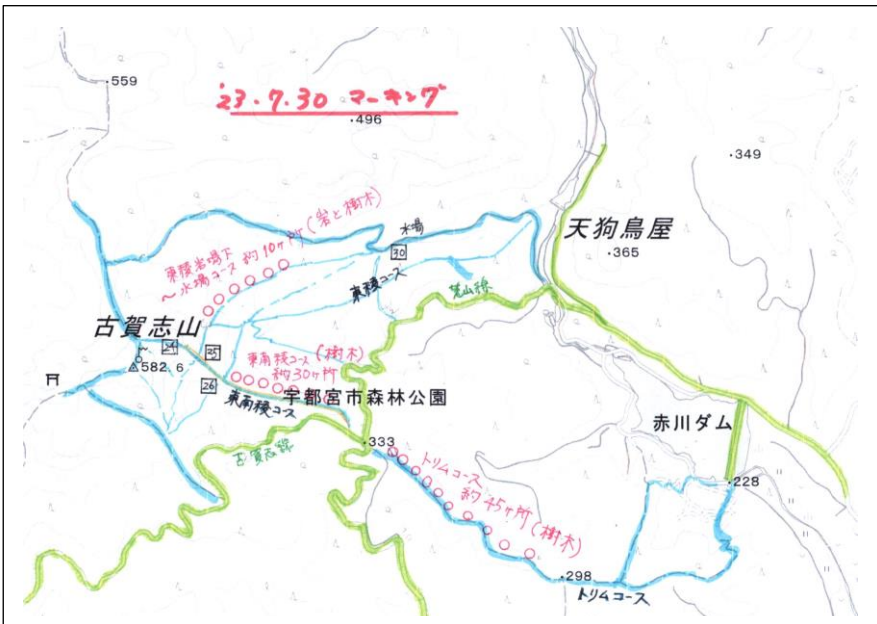
二段の瀧の上には「カジカ岩」と呼ぶ巨岩が見える。

### 3 登山者のモラルの欠如……マーキング止まらず！

一部のマーキングを続ける登山者に聞きたい。「あなたは自分の所有地に見知らぬ人が入り込み勝手に道を切り開いたり印など付けたりされたらどんな対応をなされますか？」

下野新聞にこの問題が取り上げられ報道された。この記事に「日テレ」側が反応し、現地取材となった経緯がある。

赤川ダムから仰望できる古賀志山山頂から北に延びる北主稜線以東は福岡町細野山である。福岡町細野山は国有林と民有林が共存する「中尾根」を始め、その北側には斑根石山(559)、影日向山(二枚岩)、大日向山(三角山)などがある奥深い地域である。そこには登山者が勝手に作った踏み跡、所謂「勝手道」が多数存在する。



左の略図は会員の福田和宏氏が現地調査を元に地図上にプロットしたものの。

同氏は登山仲間と共に「シルバーコース」や「東南稜コース」などに付けられたマーキングを消して歩く活動を地道に続けている。



国有林を管理する日光森林管理署も行動を起こした。早速現地調査を実施し警告文を付設した。(左写真) 柔らかな表現であるが、要は勝手にペイント等のマーキングは禁止するという文言である。

福岡町細野山には数多くの民有林の所有者がいる。警察署に被害届を出されていないが、登山者は常に民有林の中を勝手に歩いている認識を持つ必要があろう。

### ○お知らせ 7月8月の活動中止

当会では連日猛暑日が続く熱中症警戒アラートが発令されている現状を鑑み、予定していた7月、8月の作業を中止しておりました。9月より再開する所存です。